

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和2年4月号



【日高振興局】4/24 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化栽培実証～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 4</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津の将来ビジョン実行計画取組啓発&栽培技術向上研修会を開催～	
2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津地区における新規就農者確保に関する検討会を開催～	
3. 種ショウガ生産者栽培説明会を開催	
4. 誘殺トラップによるカメムシ調査開始	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>5</b>
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の巡回調査	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>6</b>
1. 重点プロジェクト【柿の優良品種への転換推進】 ～高接ぎ「紀州てまり」の展葉調査～	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7</b>
1. しみず山椒の里活性化協議会総会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>8</b>
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化栽培実証～	

## **VI 西牟婁振興局**

**9-10**

1. ウメのヒメヨコバイ類発生活長を調査中
2. イタドリ栽培実証展示圃の収穫始まる

## **VII 東牟婁振興局**

**11**

1. 三津ノ地域活性化協議会がエダマメ・トウモロコシのモデル展示圃を設置

# I 海草振興局

## 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津の将来ビジョン実行計画取組啓発&栽培技術向上研修会を開催～

4月10日、下津町農業士会（森岡利行会長）の令和2年度総会及び研修会がJAながみねしもつ営農生活センター及び会員の温州みかん園で開催された。当日は会員15名が出席。

農業水産振興課から情報提供として、令和2年度の新政策の概要等について紹介するとともに、重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】の一環で昨年度作成した「下津の将来ビジョン実行計画」の内容について説明し、会員に計画の実践を呼びかけた。

また、栽培技術向上を目的に開催された研修会では、会員の温州みかん園を巡回し、橋詰孝氏（指導農業士）を講師に、昨年の秋に隔年結果対策として設定した予備枝からの発芽状況確認や、数年間無剪定で樹形が乱れた樹の剪定（樹形改造）方法について研修を行った。各園地では、今年の着花状況や自身の剪定の考え方等について会員同士が熱心に意見交換を行い、大変有意義な研修会となった。

当課では、今回のような下津みかん産地の維持発展に繋がる取組を農業士会やJA等が定期的で開催できるよう積極的に支援していきたいと考えている。



総会



剪定（樹形改造）研修

## 2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津地区における新規就農者確保に関する検討会を開催～

4月30日、海南市役所において下津地区における新規就農者確保に関する検討会を開催した。当日は海南市役所、JAながみね、経営支援課、農業水産振興課の担当職員が出席し、経営支援課によるR2新政策「わかやま版新規就農者確保の推進」の概要説明の後、下津地域での事業活用の可能性について検討が行われた。続いて、当課から、新規就農者の確保を目的に重点プロジェクト活動で今年度取り組む予定にしている、①下津町農業士会による新規就農相談及び研修受入実施、②関係機関（市、JA）と連携した県外での産地PR活動、③産地PRチラシの作成について説明し、関係機関が連携して取組を進めて行くことを確認した。

当課では、農業者と関係機関が一体となった新規就農希望者の受入体制づくりを図るため、今後も定期的に検討会を開催していく。



検討会

### 3. 種ショウガ生産者栽培説明会を開催

4月24日、JAわかやまグリーンステーションにおいて、JAわかやま、農業振興センター、農業試験場担当者とともに、今年度種ショウガ栽培に取り組む生産者8名を対象として、栽培説明会を開催した。

この取り組みは、現状では新ショウガ栽培の種ショウガのほぼ全てが県外産地からの購入であるため、和歌山市内の水田転換畑や山間部の畑で種ショウガを栽培し、一部自給できるようにすることを目的に進めているもので、本年で5年目となる。今年度は4名が新たに栽培に取り組む。

この日は、当面の栽培ポイントと植え付ける種ショウガの選別や分割方法、植え付け方法などの説明を行った。参加した生産者らは、4月下旬から5月上旬に順次、植え付ける。

今後は、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、農業振興センター、和歌山県で構成）のメンバーで定期的に巡回指導や研修会を行い、良質な種ショウガ生産を目指していく。



栽培説明会の様子（左）、昨年度和歌山市内で生産した種ショウガ（右）

## 4. 誘殺トラップによるカメムシ調査開始

和歌地方総合農政推進協議会では、4月23日、24日にフェロモンを利用した果樹カメムシの誘殺トラップを設置し、5月1日から調査を開始した。トラップにはルアーと呼ばれるフェロモン剤を取り付け、カメムシを誘引してトラップ上部の捕集部に捕獲する。

調査地点は、和歌山市内1カ所、紀美野町内5カ所、海南市内4カ所の合計10カ所。

調査は、JAわかやま、JAながみね、海草振興局が共同で行い、週1回カメムシ誘殺数を確認する。

令和元年度のカメムシ誘殺量は、前年より少ない結果であった。また、カメムシ越冬量調査では、前年と大きな差はなく、少ない傾向であった。

調査結果は、カメムシの防除指導に活用するとともに、海草振興局農林水産振興部のホームページにて公開している。また、柿研究協議会の研修会等でも報告している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)



カメムシトラップ設置

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の巡回調査

モモ・ウメ・サクラなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が、昨年11月にかつらぎ町で確認された。すでにモモ園で被害が発生している栃木県・徳島県では、産み付けられた卵から孵った幼虫の摂食害により樹勢の低下や枯死に至っている。

那賀地方は県内一のモモ産地で当該害虫が多発するようになると、産地の存続が危ぶまれる事態となる。

そこで、那賀地方病虫害防除対策協議会（那賀振興局農林水産振興部、農業試験場、果樹試験場かき・もも研究所、農作物病虫害防除所、紀の川市、岩出市、農業共済組合北部支所、JAグループ和歌山農業振興センター、紀の里農業協同組合で構成 下田和敬二会長）では、4月14日と17日に管内104園のモモ、スモモ、ウメ栽培圃場の巡回調査を行った。調査に先立ち、果樹試験場かき・もも研究所の弘岡副主査研究員からフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）の見分け方について説明があり、参加者で目揃えを行った後、調査を実施した。結果、当該害虫の侵入は確認されなかった。

今回調査を行った園地については、今後も継続的に調査を行っていく。



営農指導員、普及指導員らによる目揃え

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【柿の優良品種への転換推進】

##### ～高接ぎ「紀州てまり」の展葉調査～

農業水産振興課では果樹試験場かき・もも研究所において育成された新品種甘柿「紀州てまり」（品種登録：平成31年4月23日）の普及促進を図っている。現地適応性を調べるために橋本市（2カ所）、かつらぎ町（1カ所）、九度山町（2カ所）の5カ所の柿園において、「紀州てまり」の穂を高接ぎし、生育調査を行っている。4月8日にかき・もも研究所と協力して展葉調査を行った。

展葉日は、高接ぎを行った園地の標高や日当たり等の条件によって差がみられ、展葉の早い園地では展葉日が4月1日、遅い園地では4月9日となった。また、昨年と比較して3月までの気温が高く推移した影響もあり、平均で約4日展葉が早くなった。

「紀州てまり」は管内で約600名が生産者登録を行い、栽培を開始している。当課では、現地適応性や果実品質、収穫基準等について情報発信していく。



「紀州てまり」の展葉調査

## IV 有田振興局

### 1. しみず山椒の里活性化協議会総会を開催

4月22日、有田川町清水行政局において令和2年度しみず山椒の里活性化協議会（弓庭一太会長）総会が開催され、委員7名が出席した。当日は、総会において令和元年度事業経過報告と収支決算報告、令和2年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認された。また、役員改選が行われ、しみず山椒生産組合組合長の平野博三氏が会長に選出された。

続いて、事務局より地域おこし協力隊や龍谷大学との交流活動や高野山・有田川流域世界農業遺産推進協議会の取組が説明され、今後は、両協議会が連携して広報事業等を行っていくこととなった。

当課としても、両協議会の活動を支援していく。



総会

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化栽培実証～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州、みなべ町と連携して現地実証園（みなべ町熊瀬川地区、同清川地区）を設置し、ウメ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）確立による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

カットバック処理は、樹高や着果位置が低下し青梅収穫等の作業が容易となるが、結果枝が減少し翌年の収量が低下する問題がある。

そこで、新梢の摘心処理を組み合わせることで、徒長枝となる枝を結果枝化し、収量の向上を図るとともに、冬季のせん定作業の省力化も図る。

熊瀬川実証園（設置3年目）は4月24日に、清川実証園（設置1年目）は4月28日に新梢の摘心処理（1次）を実施した。

処理作業に充電式の電動バリカンを用いることで、主枝や垂主枝の背面から出ている新梢を10cm程度に摘心する作業に要した時間は、1樹あたり約15分と、手作業に比べて大きく時間短縮ができた。

今後は、現地研修会の開催等を通じて、当該技術の普及に取り組む。



熊瀬川実証園（設置3年目）の摘心処理



清川実証園（設置1年目）の摘心処理

## VI 西牟婁振興局

### 1. ウメのヒメヨコバイ類発生消長を調査中

昨年9月、田辺市内のウメ園において、葉を加害するヒメヨコバイ類の成虫および幼虫が発見され、その後の調査で、本種による被害は日高郡内でも確認された。本種の発生は、国内では沖縄県で確認されているが、本県での発生は初めてであり、海外では、中国、台湾、韓国および北朝鮮で確認されている。

成虫の体色は黄緑色で、体長は3~3.5mm。複眼は黒色で、頭頂部に黒点がある(図1)。

被害の特徴としては、成虫および幼虫が葉を加害する。多数の細かい吸汁痕により、葉の表面が白っぽくなる。被害葉の裏側に幼虫の脱皮殻が付着する(図2)。吸汁された葉は、落葉することがある。

今年は田辺市内の一部地域で新葉が展葉し始めた3月下旬から本種の発生が確認されており、生産者らはウメの葉の吸汁以外に果実肥大に影響が出ないかと心配している。

未だ不明な点が多い新規害虫であることから、うめ研究所は本種の生態や生活環を調査し、今後の防除対策の確立に向けたデータを収集することを目的に、4月から10月までの7ヶ月間の発生消長調査を田辺市内のウメ園で行っており、農業水産振興課では調査に協力している。4月7日に園内3カ所に設置した粘着トラップ(図3)を当課普及指導員が10日間隔で交換し、捕殺数をうめ研究所が調査する。

今後ともうめ研究所を中心に、本調査で得られたデータを当課やJA紀南で共有し、本種の効果的な防除体系の検討を進めていく。



図1 ヒメヨコバイ類の成虫  
(和歌山県病害虫防除所 提供)



図2 葉裏に付着した幼虫の脱皮殻  
(和歌山県病害虫防除所 提供)



図3 ウメ園に粘着トラップを設置

## 2. イタドリ栽培実証展示圃の収穫始まる

農業水産振興課では、山間振興作物として比較的労力のかからないイタドリの栽培実証展示圃を平成 27 年に田辺市龍神村の休耕田に設置し、栽培を推進している。イタドリの栽培面積は徐々に増え、現在では田辺市と白浜町、上富田町で約 35a になっている。

栽培実証を開始して 4 年目となる今年は、4 月 13 日から収穫を始めた。昨年は、モグラの被害により草勢が低下し、10a 当たりの換算収量は 355kg (H30 年対比 60%) となった。このため、昨年の収穫後に、波板をシカ用防護柵の外周に床土までの深さに埋設し、モグラの侵入防止による草勢回復を図っている。

収穫開始は昨年より 6 日遅く、収穫期間は 21 日までの 9 日間であった。株元が直径 1.5cm 以上の太さのものを収穫し、10a 当たりに換算すると 455kg (H31 年対比 128%) となった。

定植後の主な管理作業は、定植 1 年目の除草、5 月の施肥、冬期に枯れた地上部の剪除と比較的労力のかからないことが魅力である。但し、苗の調達には自生イタドリの地下茎を掘り出して自分で育苗しなければならない。このため林業試験場では、優良苗の大量増殖試験の成果を活用し、日高川町にあるバイオセンター中津において苗の供給体制を構築し、今年から販売を始める。生産者から苗の購入希望を聞くなど当課も連携して取り組んでいる。

当課では、今後も極力手間をかけずに栽培できることを実証し、来年は 550kg/10a の収量を目指すとともに、栽培面積の拡大に向けた普及活動を関係機関と連携しながら実施していく。



防護柵



収穫時の草姿

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 三津ノ地域活性化協議会がエダマメ・トウモロコシのモデル展示圃を設置

4月3日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、新宮市熊野川町の三津ノ地域でエダマメとトウモロコシのモデル展示圃合計約10aを設置した。

この地域は、熊野川と赤木川の合流付近にあり台風などによる冠水被害が多発することから、台風期間前に収穫が可能で、地元での需要が高いエダマメとトウモロコシを選定し展示圃を設置した。

エダマメは6月中旬～7月上旬、トウモロコシは6月下旬に収穫し地元の直売所等へ出荷する予定である。

今後、当課では協議会、JAみくまの連携しながら両作物の収穫時期や品質、収量等を調査し、現地検討会を通して、周辺農家への導入を推進していく。



エダマメの播種



トウモロコシの定植

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489